

國民學校藝能科音樂の本旨・實際

音感教育

— 講演筆記 —

東京高等師範學校教官 井 上 武 士

幼稚園の音樂についてさういふ事をやつたらよいか具體的にお話すれば皆様には喜ばれるだらうが、私は幼稚園さういふものを知らないのです。従つて今明日にわたり主として國民學校の事を申し上げます。さうすればその前における幼稚園ではさうすればよいかは皆様の御體驗からおわかりになることと思ひます。

先づ、國民學校音樂教育の根本方針は如何、次に國定教科書は如何に編纂されてゐるか、またそれを使つて音樂教育を如何に實行してゐるかさういふこの三つについてお話したいと思つてゐます。

一、音樂教育の根本は何か

その前に、ひろく音樂教育の根本についてお話しします。音樂教育は精神に教養を與へることを目的とします、ギリシヤ、ローマの古い時代から今日に至るまでこの目的に變りなく、また東洋に於ても同じなのであります。飽くまで

音樂による精神の教養、人格の完成に重きを置いたことは確かで、肉體への影響についてはあまりいはれず、主として音樂の影響は精神にあるといはれ、またさう信じられて來たのです。

二、國民學校音樂の本旨

しかし、國民學校の音樂教育では、歌曲を正しく歌ふこと、音樂による國民的情操の陶冶を目的とする外、時代の影響は、精神のみを目的とせず肉體への影響を重んずるやうになりました。即ち感覺、特に聽覺の陶冶がそれであります。國民學校の音樂教育が特に音感的といはれる所以もここにあると思ひます。耳をよくすることは音樂教育の使用命の中の大切な分野なのです。今までは音樂は味ひ、歌ひ、生活にゆきりをつけることが主に考へられたが、時代の影響から鋭敏な聽覺の育成が考へられて來たのです。従來、耳が大切であるといはれたのは音樂鑑賞の爲であつたが今

後は國民生活に於ける耳の使命から大切であるといふのであります。

耳が如何に生活上大切かといふに、人間が一生の中に一番多くつかふのは眼と耳です。その中でも耳をよく使ひます。眼は限定された時間だけ使ふのだが、耳は眠つてゐる時にもある程度の刺戟には反應する等、生活の廣い部面に關係を持つてゐます。古來智者に比して聾者に優れた人の少いのをみて、精神修養の上に眼より耳が重要な役目をなすことがわかると思ひます。聰明の聰は耳へんで目へんではない、聽覺の鋭敏なることを示す文字であります。

ところで、音樂教育といふものが、單に歌を楽しく歌ひ、音樂を聴くことにより精神的教養を高める事だけでなく、耳を鋭敏にすることを考へるやうになつたのは時代の影響であります。生活の複雑化により、世界の日本國民の立場から音樂教育が非常に重要になつて來たのです。子供の側から直載にいへば、音樂の爲にのみ耳が必要なのではなく、何を學ぶにも耳をよくする必要があるのですが、これを音樂教育が重點を置いて擔當することになつたわけ、音樂教育の使命も廣くなつたのであります。この鋭敏なる聽覺の育成といふことが、年度の國民學校音樂及その教科書の中にはつきり出て居ります。

三、國民學校音樂の實際

(一)音の問題　國民學校一年の子供には、國語で先づ片假名を教へ、次に簡單な漢字を教へますが、これは何を豫想する國語教育かといひます。日本國民として必要な國語の生活に耐へる基礎の教育を豫想する、即ち、日本人として必要な文字の生活、言葉の生活はこれを基礎にしてつみ重ねてゆくのです。そこで音樂の方に入つてみるに、音樂では子供は現在及將來非常に複雑な音の生活に入るが、國民學校ではこの基礎を教へるのです。それでは音樂では何を基礎の教育を考へるかといふことになり、音の問題が起るのであります。こゝにあるピアノは八十八鍵で、最低音は一秒間の振動數二十七、最高音は約四千といふのですが、子供の生活に於ける音はこの様に單純なものではありません。非常に複雑なものです。學者の説によれば、人間に聞える音は大體一秒間十六から二萬振動まであるといひます。けれども勿論個人差もあり、年齢差もあります。(ハ調ドを弾く)この音をこゝにゐる皆様はそれと異つて聞いています。この音の振動は非常に複雑なのです。

さて我人間が聞き得る一秒間十六から二萬振動の音の間には無數の音がありますが、それを一々區別して聞くことは出来ないのです。半音の八分の一より少い差になる區別が出来ない爲、無限な音が有限な音と聞きかたれるのです。ピアノの音はそれを單純化したので一オクターブに十

二音しかありません。田中氏の純正調オルガンでは一オクターブに三十六音出ます。しかしこれでも音楽は完全には出来ない、五十三の音が必要とされて居ります。生活の中に於てだけでなく音楽に使はれる音も複雑になるわけです。この中で我々はさういふものを基礎と考へるか、それがピアノの幹音なのです。音楽に用ひる音は複雑だがそれを最も單純化したのがピアノの十二音ですが、これを純正律に對し平均律と云ひます。國民學校や中等學校では平均律の樂器を用ひるので音樂の最も基本となるものを使かつてゐるわけであります。

さて、このピアノの八十八音は系列的に並べられて居り黒鍵と白鍵とに分れてゐます。そして黒鍵は三、二、三、二、三規則正しく並んでゐます。この中、白鍵から出る音を幹音と云ひ、また白鍵音とも云ひます。幹音から派生したのが派生音、即ち黒鍵音と考へます。これは、理論的にいふと違ふ場合も生じますが事實上は黒鍵音に限るわけです。(ロ)幹音について 次に幹音の正體を調べてみませう。白鍵のある一音を基にし次ぎ／＼に白鍵を弾く八番目に同音があります。次の音を基にしても同様、その隣りを順に調べても同様です。従つてこの幹音の中には七音が基礎をなしてゐるこゝがわかります。それに名をつけたのが音名です。音名は獨逸ではA, H, C, D, E, F, G, 英米ではa,

b, c, d, e, f, g, 我國ではい、ろ、は、に、ほ、へ、こ、と云つてゐます。結局ピアノの八十八音はこの七音が繰り返されてゐるものです。そこで、國民學校では、初等科一年から三年までで幹音を覚えさせようといふ計畫なのです。つまり幹音を覚えさせるこゝを通して聽覺の育成をするのであります。

(ハ)幹音を覚えさせる では、幹音を覺えるとはさういふこゝがさういひます。幹音の一つ一つの音の特殊な音高を覺えさせるこゝが事なのです。例へばイ音は他のロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、の六音と全く違つた音高を持つてゐます。これは尤も人間がきめたものですが、この特殊なる音高を覺えさせるのです。覺えさせるこゝは、何で鳴つても、その音が何音とわかるやうにさせたいといふ考へ方なのであります。

同時に、音には特殊な性質があります。これも覺えさせるのです。即ち、幹音の特殊なる音高と性質を覺えさせるのであります。覺えさせるこゝは例へばイ音をイ音として認識させ、同時に鑑賞させ、また記憶させるこゝを三を含みます。

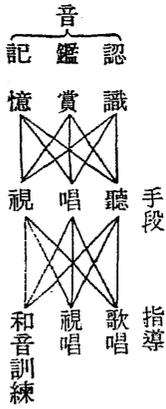
(ニ)實行上の手段 これを如何なる手段で實行するかといひます。先づ聽かせる事、次に唱はせるこゝ、更に視させるこゝ

(圖示)

をします。七幹音を一年から三年までに教

へるのだから、先づイ音を一年の一学期か、つて覚えさせるべきすればこの音のみを聴かせ、唱はせ、視させればよいわけです。しかし、これでは非常な不都合を生ずるのでこれは採りません。また今度のウタノホンでは#やリを用ひないやうにしました。この爲、デンシヤゴツコはもご二調だつたのがハ調に下り、ヘイタイサンは一調からハ調にかはり、二年用に入れられてゐます。これは幹音のみで作曲する爲に改めたのです。

(ホ)實際指導上の方法 さて國民學校音樂教育は實際指導上、如何なる方法をさるかさひひますか、先づ歌唱によります。これは、聴(ラジオ、蓄音機、先生の範唱等)唱、視(譜が大きいのは視させる爲)の三手段による歌唱の指導を通して幹音を記憶せようとするのです。次は視唱、これは、三年以上さなつてゐますが、その準備として和音訓練をします。和音訓練は聴、唱、視の三手段によりますが幹音のみ扱ひます。この三指導を通して音樂教育のめざす幹音の獲

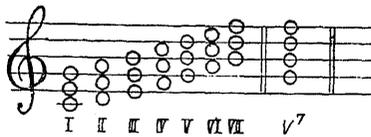


得を實行するのです。

(ハ)和音 和音さひひますが、國民學校では一年から

三年までに和音中の基礎的なハ調の各度上に出来る三和音と五度の上の七の和音トロニヘを教します。

これらの和音は七幹音を組み合わせたものです。白鍵だけで出せる音を三年まで扱ふわけでありませう。以上が國民學校のウタノホンを編纂する方針であり、また藝能科音樂の根本方針なのです。



(ト)國民學校音樂の實際 次に實際につい

てお話しませう。ウタノホン上には二十教材あります。この外に歌唱の指導としては儀式唱歌があります。これは國民學校では重要視されてゐます。それから校歌も教へなければなりません。かういふわけですから歌曲指導の時間が足りないかもしれないのでこの二十の歌曲の中、必修教材と選擇教材とを定めてあります。即ち、ウタノホン上では、ガクカウ、ヒノマル、ウミ、オウマ、オ月サマ、ハトボツボ、兵タイゴツコ、ヒカウキ、の八が必修教材で、軽く過す時、又は省くときは選擇教材の中から省くのです。かういふ仕組が國民學校にあるさひひこを頭において幼稚園の方を指導願ひ

(三) 鼻音について。

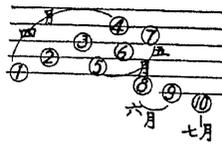
ウマ、ウメ、ウマル等はmの發音をする。

(四) 兒童語に基準を置いたが、例外がある。「ネガヒマス」の「ス」は普通は無聲擦音だが、唱歌では有聲で母音を響かせる。

このやうな内容を含む歌唱の教育であるといふことを念頭に置いて幼稚園でもやつていたゞきたいと思ひます。

次に視唱の問題ですが

先づ①を「ホ」に教へ、い
指させ(ウタノホン表紙
用)てくりかへし教へる
ルの「ホ」に教へてもい
は先生方の御工夫により
さをつけず、名前を覚え
す。



四、歌唱と視唱のすゝめ方

今日は御一緒に少し歌つてみませう。(ガクカウ、ヒノマル、ユフヤケコヤケを練習)正しい高さ、正しいテムボで歌へるやうに指導することが大切です。このユフヤケコヤケはかなり特徴があります。つまり、年度の教科書には日本音階を比較的多く盛り入れたので、一年の本には六曲あります。

上圖の順序で
はせてみ、又
裏の五線譜利
のです。ホタ
でせう。そこ
ます。音の高
させるので

さて四、五月に七音の視唱を終る間に、歌をだん／＼に教へてゆくのです。さうするに五月末になるに「ガクカウ」なき譜で唱へるやうになる。これは一—七までの音だけで出来てゐる曲だからです。「ヒノマル」「ユフヤケコヤケ」も同様五月末になるに譜で唱へます。即ち、四月には歌唱と視唱は別に始められるが、五月末には急角度に結合するのです。歌唱と視唱の二者が互に獨立すればする程、即ち徹底すればする程、結合は徹底します。この結合した音名視唱が國民學校教育に如何なる意味をもつかといふに音高記憶の基礎になるのです。何故かといへば音の高さを憶へさせるには階名唱は不便利です。例へば「ガクカウ」で「ソ」の音は「ヒノマル」では「レ」、「ユフヤケコヤケ」では「ト」になる。

この事はこの音の高さを憶へるに不都合なことです。三年間、六十の歌を同じ音名で歌ふのは即ち、音高記憶の結果となり、同時に、音名視唱の基礎になります。かうして六月になるに「ニ」音をやり教材「ウミ」までは全部歌へるに成り、更に七月になれば九音をおぼへ、一年全部の教材がうたへるわけがあります。以上歌唱と視唱のすゝめ方について話しました。